



平成26年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社総医研ホールディングス
 コード番号 2385 URL <http://www.soiken.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小池 真也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 田部 修
 四半期報告書提出予定日 平成26年5月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

TEL 06-6871-8888

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年6月期第3四半期の連結業績(平成25年7月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第3四半期	1,823	21.9	70	△43.0	77	△42.0	64	△49.5
25年6月期第3四半期	1,495	37.5	122	—	132	—	127	—

(注) 包括利益 26年6月期第3四半期 79百万円 (△57.0%) 25年6月期第3四半期 184百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年6月期第3四半期	2.47	2.46
25年6月期第3四半期	4.90	4.71

(注) 当社は平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	%	%
26年6月期第3四半期	4,307		4,103		95.2	
25年6月期	4,276		4,023		93.9	

(参考) 自己資本 26年6月期第3四半期 4,099百万円 25年6月期 4,015百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年6月期	—	0.00	—	—	—
26年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年6月期の連結業績予想(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,100	6.8	60	4.5	70	△5.2	40	△42.5	1.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年6月期3Q	26,250,000 株	25年6月期	26,250,000 株
② 期末自己株式数	26年6月期3Q	91,800 株	25年6月期	91,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年6月期3Q	26,158,200 株	25年6月期3Q	26,098,600 株

(注) 当社は平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数(自己株式を含む)及び期末自己株式数並びに期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中でありませぬ。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の我が国の経済は、雇用環境および所得環境が持ち直すなか、消費税率引き上げ前の駆け込み需要も加わって個人消費および住宅投資が好調に推移したほか、アベノミクスの一環である緊急経済対策の効果等による公的部門の押し上げもあり、総じて景気の拡大傾向が継続しました。

当社グループの主な事業領域の一つである特定保健用食品（以下「トクホ」といいます。）業界におきましては、血圧や血糖値といった一般的な健康表示のトクホの開発に一巡感が生じたことに加え、イソフラボンやアガリクスの安全性に関する問題が話題になり開発リスクが顕在化するなかで、トクホの主な開発主体である大手の食品・製薬企業等の開発動向が鈍化し、新規の開発案件が減少する傾向が続いております。

このような事業環境の下、当社グループでは、評価試験事業等の食品の開発支援の事業から、健康補助食品事業等の自社製品の開発及び販売ならびにマーケティング事業や医薬臨床研究支援事業等のエビデンス構築及びマーケティング支援等の事業への事業構造の転換を図っております。

当社グループでは、このような事業戦略の実現に向けて適正な経営資源の配分を行うとともに、コストの削減にも徹底して取り組むことにより、早期に業績の回復、拡大を図ってまいります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生体評価システム)

生体評価システム事業のうち評価試験事業におきましては、主に食品の有効性に関する臨床評価試験の受託手数料等73百万円（前年同期比59.7%減）の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高103百万円（前年同期比15.4%増）、当第3四半期連結会計期間末の受注残高は72百万円（前年同期末比447.3%増）となりました。

生体評価システム事業のうちバイオマーカー開発事業におきましては、売上（前年同期はなし）、受注高（前年同期はなし）及び当第3四半期連結会計期間末の受注残高（前年同期末はなし）は何れもありませんでした。

生体評価システム事業のうち医薬臨床研究支援事業におきましては、主に糖尿病領域及び循環器病領域の医師主導型臨床研究の支援業務の受託手数料等438百万円（前年同期比88.9%増）の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高232百万円（前年同期比24.0%減）、当第3四半期連結会計期間末の受注残高は879百万円（前年同期末比3.6%減）となりました。

これらの結果、生体評価システム事業の業績は、売上高511百万円（前年同期比23.5%増）、営業利益115百万円（前年同期比27.8%減）となりました。

(ヘルスケアサポート)

ヘルスケアサポート事業は、特定保健指導の受託を中心として、企業における社員の健康管理・増進のニーズや個人の健康意識の高まり等に関連した様々なサービスを健康保険組合等に提供する事業であり、生活習慣病の専門医から成る組織である一般社団法人専門医ヘルスケアネットワークと共同で事業展開しております。当第3四半期連結累計期間におきましては、特定保健指導、被扶養者を対象とした特定健康診査のサポート、糖尿病の重症化予防サービス、レセプト解析の受託手数料等90百万円（前年同期比15.0%減）の売上計上を行いました。

また、受注状況につきましては、受注高90百万円（前年同期比15.0%減）、当第3四半期連結会計期間末の受注残高はありませんでした（前年同期末はなし）。なお、この事業の受注高は、主に特定保健指導の実績等に応じて事後的に決まるものでありますので、契約締結時点ではなく、当該実績等が確定した時点で計上しております。

この結果、ヘルスケアサポート事業の業績は、売上高90百万円（前年同期比15.0%減）、営業損失1百万円（前年同期は14百万円の営業利益）となりました。

(化粧品)

化粧品事業におきましては、従来の期間限定のキャンペーンを中心とした販売戦略から、定期購入顧客層の拡大や既存顧客とのコミュニケーションの強化によりコアとなる顧客基盤を拡充し、安定的な販売の増加を目指す方向のプロモーションへの転換を推進しております。通信販売部門においては、広告宣伝活動や既存顧客向けの販売促進活動が奏功して概ね前年同期程度を維持し、売上高は284百万円（前年同期比2.9%減）となりました。一方、卸売部門の売上高は、消費税増税前の駆け込み需要により特に平成26年3月の販売が伸び、183百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

この結果、化粧品事業の業績は、売上高468百万円（前年同期比0%増）、営業利益28百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

(マーケティング)

マーケティング事業におきましては、医薬品等のマーケティング支援業務の受託手数料等についての売上計上はありませんでした。

この結果、マーケティング事業の業績は、売上高なし（前年同期は0百万円）、営業損失は15百万円（前年同期は14百万円の営業損失）となりました。

(健康補助食品)

健康補助食品事業におきましては、平成21年3月より、「疲労定量化及び抗疲労食薬開発プロジェクト」から生まれた製品である飲料「イミダペプチド」の販売を開始し、平成23年3月からは、飲料に加え、ソフトカプセルタイプの「イミダペプチド ソフトカプセル」を販売しております。また、新商品として、平成24年7月に錠剤タイプの「イミダペプチド プレミアム」、平成24年8月にスポーツドリンクタイプの「イミダペプチド アスリート」を発売いたしました。

当第3四半期連結累計期間は、「イミダペプチド」が複数のテレビ番組で取り上げられたこと等により認知度が向上したことに加え、疲労回復のニーズが高く広告出稿に対する反応が良好である夏場に合わせて広告宣伝活動を積極的に展開したことや、例年は販売が減速する秋以降も好調を維持できたこと等から、計画を上回る販売実績となりました。一方、広告宣伝費を積極的に投下したこと、新規ユーザーの獲得が好調に推移した結果として初回購入者限定の割引及び送料無料の適用による売上が計画を上回ったこと等から、売上高に比して費用が先行した形となりました。なお、健康補助食品事業においては、従来より広告出稿の費用対効果が良好である夏場に広告宣伝費等の費用を先行させ、秋以降に回収することを想定した運営を行っており、当第3四半期連結累計期間の業績も当該想定に沿ったものとなっております。

この結果、健康補助食品事業の業績は、売上高748百万円（前年同期比49.1%増）、営業利益は77百万円（前年同期比14.7%増）となりました。

これらに加えまして、セグメント間取引の消去や全社費用による営業損失は134百万円（前年同期は134百万円の営業損失）となりましたので、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,823百万円（前年同期比21.9%増）、営業利益は70百万円（前年同期比43.0%減）、経常利益は77百万円（前年同期比42.0%減）、四半期純利益は64百万円（前年同期比49.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて31百万円増加（0.7%増）し、4,307百万円となりました。これは主に、現金及び預金が313百万円減少したものの、有価証券が200百万円、受取手形及び売掛金が70百万円、商品が63百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて47百万円減少（19.0%減）し、204百万円となりました。これは主に、未払法人税等が11百万円、前受金が30百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて79百万円増加（2.0%増）し、4,103百万円となりました。これは主に、四半期純利益を64百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績につきましては、生体評価システム事業のうち評価試験事業が前連結会計年度比で大幅な減収及び減益となるものの、生体評価システム事業のうち医薬臨床研究支援事業、ヘルスケアサポート事業ならびに健康補助食品事業が増収及び増益となり、全体では増収及び概ね前連結会計年度と同程度の利益計上となるものと見込んでおります。

当第3四半期連結累計期間は、健康補助食品事業において新規ユーザーの獲得が好調に推移したこと等からイミダペプチドの販売が伸びたこと、化粧品事業において消費税増税前の駆け込み購入により特に平成26年3月の販売が増加したことを主因としまして、売上高、利益ともに計画を上回る進捗となりましたが、現時点においては第4四半期以降の販売動向が不確実でもあり、平成26年2月12日に公表いたしました業績予想数値の前提となる計画に重要な変動はなく、当該業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,081,228	1,767,682
受取手形及び売掛金	169,903	239,926
有価証券	700,000	900,000
商品	101,565	165,035
仕掛品	116,946	93,714
原材料及び貯蔵品	50,738	71,215
その他	22,005	25,425
貸倒引当金	△2,382	△5,184
流動資産合計	3,240,006	3,257,814
固定資産		
有形固定資産	16,769	14,181
無形固定資産		
その他	25,931	17,634
無形固定資産合計	25,931	17,634
投資その他の資産		
投資有価証券	943,350	965,350
その他	50,149	52,636
投資その他の資産合計	993,499	1,017,986
固定資産合計	1,036,199	1,049,802
資産合計	4,276,206	4,307,617
負債の部		
流動負債		
買掛金	26,328	49,024
未払法人税等	24,431	12,595
ポイント引当金	6,540	6,172
前受金	64,795	34,219
その他	123,893	96,014
流動負債合計	245,989	198,026
固定負債		
その他	6,486	6,459
固定負債合計	6,486	6,459
負債合計	252,476	204,485
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,836,587	1,836,587
資本剰余金	2,674,636	2,674,636
利益剰余金	△225,385	△160,856
自己株式	△199,940	△199,940
株主資本合計	4,085,898	4,150,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△70,468	△51,067
その他の包括利益累計額合計	△70,468	△51,067
少数株主持分	8,299	3,771
純資産合計	4,023,729	4,103,131
負債純資産合計	4,276,206	4,307,617

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	1,495,432	1,823,270
売上原価	514,385	714,758
売上総利益	981,047	1,108,511
販売費及び一般管理費	858,258	1,038,493
営業利益	122,788	70,018
営業外収益		
受取利息	7,499	6,475
貸倒引当金戻入額	2,500	—
その他	230	575
営業外収益合計	10,229	7,051
営業外費用		
株式交付費	60	—
その他	2	8
営業外費用合計	62	8
経常利益	132,955	77,060
特別利益		
投資有価証券売却益	18,850	—
特別利益合計	18,850	—
特別損失		
固定資産除却損	—	22
特別損失合計	—	22
税金等調整前四半期純利益	151,806	77,038
法人税、住民税及び事業税	29,292	18,186
法人税等調整額	△878	△1,148
法人税等合計	28,413	17,037
少数株主損益調整前四半期純利益	123,392	60,000
少数株主損失(△)	△4,394	△4,528
四半期純利益	127,786	64,528

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	123,392	60,000
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	61,473	19,401
その他の包括利益合計	61,473	19,401
四半期包括利益	184,865	79,401
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	189,260	83,929
少数株主に係る四半期包括利益	△4,394	△4,528

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	マーケ ティン グ	健康補助 食品	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	414,203	105,984	468,391	250	502,102	1,490,932	4,500	1,495,432
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	120	—	1,467	1,588	△1,588	—
計	414,203	105,984	468,511	250	503,570	1,492,520	2,911	1,495,432
セグメント利益 又は損失(△)	159,830	14,446	29,862	△14,523	67,468	257,084	△134,295	122,788

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額4,500千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△134,295千円には、全社費用△174,795千円、セグメント間取引消去37,588千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	マーケ ティン グ	健康補助 食品	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	511,677	90,048	468,471	—	748,572	1,818,770	4,500	1,823,270
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	980	—	—	—	1,416	2,396	△2,396	—
計	512,657	90,048	468,471	—	749,989	1,821,167	2,103	1,823,270
セグメント利益 又は損失(△)	115,446	△1,453	28,025	△15,239	77,389	204,169	△134,150	70,018

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額4,500千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△134,150千円には、全社費用△174,650千円、セグメント間取引消去38,396千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。